

生物チャレンジ2009 新聞

ようこそ、広島へ！

参加者のみなさん、こんにちは。いよいよ、生物チャレンジ2009 第二次試験の開幕です。

2600名を超える第一次試験参加者からの勝ち抜き、おめでとうございます。そして、広島へようこそ。これから第二次試験の実験試験が始まりますが、スタッフ一同、さまざまなイベントを楽しんでもらえたらと願っています。

今日から始まる生物チャレンジ2009第二次試験では、第一次試験を勝ち抜いた73名を対象に、ここ広島大学にて実験試験を行います。今日と明日は実験試験が3つ予定されていますが、どうかリラックスし

て、全力を出してほしいと思います。みなさんの中から、第一次・第二次を通じた成績によって金メダル(10個)・銀メダル(10個)・銅メダル(20個)を贈ります。さらに、いくつかの特別賞も用意されていますので、お楽しみに。

生物チャレンジ2009第二次試験では、試験を行うだけではなく、広島大学での研究体験やサイエンスカフェを通じて、最先端の生物学研究に触れてもらったり、全国から集まった参加者とも交流してもらったりすることができます。今日からの4日間、どうぞ目一杯楽しんで下さいね。

速報！第20回 国際生物学オリンピック

第20回国際生物学オリンピックは、2009年7月12日から19日に日本(つくば)で開催されました。参加56カ国・地域、221名の精鋭が参加したつくばの大会では、実験試験が4題と理論試験が実施されました。その総合成績によって、およそ10%に金メダル、20%に銀メダル、30%に銅メダルが授与されました。そして、今大会では、初めて日本から金メダル受賞者が誕生しました！さらに3名も銀メダル！日本での開催でもあり、快挙にわきました。みなさんにもこの快挙に続いて欲しいと思います。

今回の生物チャレンジ第二次試験に参加したみなさんのうち、高校2年生以下の中から15名が選抜されます。選抜者は最終日(8月20日)に発表になります。その中からさらに4名が日本代表として選抜され、来年は韓国で開催される第21回国際生物学オリンピックに参加することになります。

国際生物学オリンピックへの日本の参加は今回で5年目でしたが、年々獲得するメダルが増えてきました。これに続いて、みなさんも目指せ、メダリスト！

おもな予定と天気予報

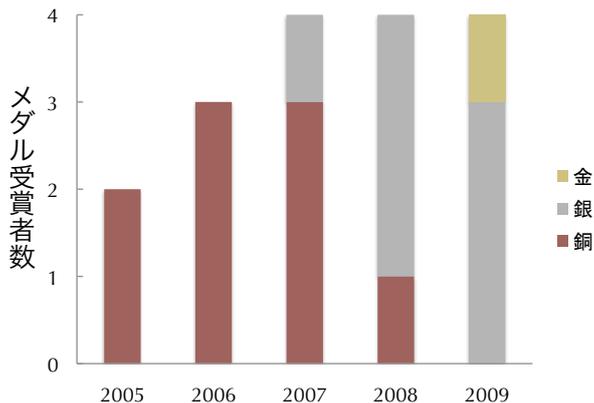
8月17日(月)	☁️➡️☀️
開会式	
実験試験1	33/24 10/0
8月18日(火)	☀️
実験試験2	
実験試験3	32/24 0
サイエンスカフェ	
天文台見学	
8月19日(水)	☀️☁️
農場見学	
研究関連施設見学	32/24 20
最先端研究体験	
8月20日(木)	☀️☁️
表彰式・閉会式	32/24 10

※天気予報は8/17 5:00気象庁発表
数字上段：最高/最低気温
数字下段：降水確率

本日の宿泊サポート

(女性)	(男性)
近藤 茉莉絵 (910)	中野 陽介 (410)
森田 真規子 (912)	福田 栄二 (610)
濱崎 佐和子 (815)	棕田 崇生 (915)
野崎 香奈子 (816)	富川 光 (702)
	和崎 淳 (502)

(括弧内は予定の部屋番号)



国際生物学オリンピックでの日本人メダリストの数

広島というところ

生物チャレンジとその前身の国際生物学オリンピックの国内予選は、これまで関東地方で実施されていましたが、今回、西日本で初めて広島大学で開催することになりました。広島には馴染みの少ない人も多いと思いますので、開催地の広島大学と広島というところについて紹介しましょう。

広島大学は明治35年設立の広島高等師範学校などを前身として、戦後の昭和24年に新制大学の広島大学として設置されました。現在、広島大学の11学部と12研究科などでは、1万5千人を超える学生が学んでいます。ここ、東広島市の東広島キャンパスには昭和57年から広島市内からの移転を開始し、今回生物チャレンジ第二次試験の主会場となる総合科学部は平成5年に



広島大学 東広島キャンパス



移転してきました。現在も広島市内にある霞キャンパスには医学部、歯学部、薬学部などがあります。

広島県は、人口が中四国地域で最も多い県（全国でも12位）ですが、面積も中四国地域で最も広い県（全国11位）です。自動車・造船など重工業が盛んなだけでなく、全国的にも有名なカキをはじめとした瀬戸内の海の幸に加え、中国山地からの山の幸など、自然の恵みが豊かなところ。山陽地方に位置する温暖な地域なので、夏は晴れる日も多く、今回の生物チャレンジも厳しい暑さの中行われることになるかもしれません。キャンパス内を巡るときなどには水分をとることを忘れないようにして下さい。それでも、東広島キャンパスは海拔200m程度の高台に位置するため、広島市内と比べると朝晩は涼しく感じられます。明日の天文台見学は少し涼しく感じられるかもしれません。冷房の調節を含めて、温度差で体調を崩さないよう、十分に気をつけて参加して下さいね。

[寄稿] 生物学の世界へはばたけ

無生物だった地球を多くの生物が住めるように変えたのは生物の働きである。その結果として膨大な数の生物種が生まれ、地球は一つの生態系として機能している。最も遅れて地球上に誕生した生物種であるヒトは、今やウシに次ぐ陸上動物第2位のバイオマスを占めるに至った。ヒトが地球生態系にもたらす影響は甚大である。今日の地球規模の環境変動や生物多様性の破壊はヒトの活動がもたらしたものだ。

今日、物質文明に取り囲まれてヒトは生きてゆける。野生のトラやカエルやヘビなどと自らのつながりを考えることはまずない。驚きであるが、人間以外の生物を一切認識しなかった（あるいは無視してきた）と言う人がいる。地球上でのヒトの永続性を可能

にするには、ヒトを生物種として見つめることのできる人間の存在が必要である。その視点を持つ人間は生物学を良く知る人間だ。

生物学の世界は無限に広くて深い。多くの若い感性がこの世界に羽ばたいてくれることを期待している。生物学こそ地球を救うからだ。

広島大学理事・副学長（教育担当） 上 真一
専門は生物海洋学。エチゼンクラゲなどのクラゲ大発生現象を海洋生態学的に研究している。

採集したエチゼンクラゲを横にナショナルジオグラフィックの取材を受ける（2006年11月、隠岐にて）



生物チャレンジ2009新聞は会期中毎日刊行する予定です。

生物チャレンジ2009新聞は、第二次試験を開催する広島大学のスタッフにより編集されています。会期中毎日、新鮮な情報をお届けする予定です。お楽しみに！